

アオギリ通信

3号



SEEDS OF PEACE! 平和の種を世界へ

発行元：ミュージズの里 <http://musevoice.com/>
編集人：中村里美 伊藤茂利 石塚佐和子
デザイン制作：三浦武治
アオギリにたくして公式HP <http://aogiri-movie.net/>

●ミュージズの里では、毎月チャリティーライブ「アオギリにたくして」を開催しています。歌・演奏・朗読・芝居・パントマイム・舞踊等、国籍や世代を超えて、表現者に開かれた場です。皆様からの募金は、被爆者のメッセージを世界に伝え、被爆アオギリ2世・3世の種や苗に平和への思いをたくして植樹する「AOGIRIプロジェクト」の活動資金となります。参加費無料です！ご出演&ご参加を希望される方は、
crosscultureplaza@yahoo.co.jp (担当：石塚)

●映画「アオギリにたくして」

製作ニュース

3・11に、映画「アオギリにたくして」の福島ロケが行われる予定です。被爆アオギリ2世の苗の植樹のシーンを撮影しますが、現地の皆様のご協力をいただき、映画の撮影だけではなく実際に被爆アオギリ2世の植樹をさせていただくことになりました。東京からも被爆者の皆様と一緒に同行してくださいませ。平和の大切さといのちの尊さへの思いをたくして、みんなで植樹したいと思っています!!

●「極北の越年」

26年後の映画・アオギリ

北米大陸の最北端、アラスカ州で被爆体験を英語で語り継いでいる若い女性がいる。この情報を得たぼくはディレクターからスタッフ4人を引き連れて州都ジュノーへ飛んだ。

ぽつちやりした丸顔で大きな笑窪が可愛いその女性はジュノーのハイスクールの教室で、「サダコと千羽鶴の物語」を英語で熱く語り語っていた。1986年の12月中旬の事だ。

ぼくは年末特別番組として「中村里美22歳、極北の越年」というドキュメンタリーを制作し、ロサンゼルスの日系社会向け放送した。あの時から26年の歳月が経過した。

ぼくもすっかり老いたし、中村里美さんも円熟のオバハンになった。変わらないのは被爆体験を語り継ぐ、という彼女の生き様であり、「アオギリ」の生命力に心を動かされ、生きる逞しさが蘇った被爆者たちの人生であった。

2013年正月、彼女が音楽制作の伊藤茂利と熱海のマンションを訪ねてきた。制作中途の映像を見た。リテイクする箇所が何か所もある、との説明だ。リテイクすればするだけまたお金がかかる。でも彼女は怯まない。真剣だ。

「映画を創るの」と円熟の平和運動家は言いきった。「えっ?」ぼくはゾクツとした。ロサンゼルスで20年以上も映像制作を続けてきたぼくだから「映画」制作がどんなものかリアルに知っている。それは途方もない資金とエネルギーを費やす作業である。

後日、台本が送られてきた。原爆で片足を失った女性の絶望と愛の物語である。ドラマは「アオギリにたくして」生きる被爆者の悲惨と栄光を謳い上げる。そこにエネルギーで逞しい里美さんの人生がダブル。もうぼくは「大変だぞう」なんて言わない。

映画の聖地・ハリウッドを抱えるLAには世界中から映画青年が夢を抱いてやってくる。

底に平和を願う残像として消えることはない。「非核」と言い「核廃絶」を祈って生きてきた日本人は人類史上初の被爆をヒロシマで、第二の被爆をナガサキで、第三の被爆をビキニで...そして第四の被爆をフクシマで体験した。いったい何回、放射能を浴びたらぼくら日本人は核被害から逃れることが出来るのだろうか。

ぼくのテレビ局にも実に様々な映画青年がドアを押し、番組制作に係わっていった。でも僕達にもハリウッドに潜り込み生きている日本人はごくわずかではない。映画には若者を惹きつける魔力のようなものがある。それだけに憑りつかれた青年の光芒と現実の挫折感恐ろしく深い。正直言って「止めた方がいい」と思った。だが彼女がど素人なのだ。映画が「瞬間の映像にどれほどお金を喰う虫か分かっている」とはとも思えない。

「大変だよ映画は...」ぼくは曖昧に言いよんだ。「大変だよ映画は...」ぼくは曖昧に言いよんだ。賞した世界的なベストセラー作家、村上春樹は311直後の9月、授賞式で強い

メッセージを全世界に送った。ぼくら日本人が歴史的に抱いてきた「核アレルギー」を今こそ大切にしようよ。「効率」だけを追求して生きてきたぼくらが生き方を変えようではないか。たとえそれが電力会社や原発を推進したい勢力から「非現実的夢想家」と呼ばれようよ。

ぼくら日本人はヒロシマの平和祈念公園の慰霊碑で誓ったのに「再び過ちを犯したではないですか」フクシマの事故は被害者であると同時にぼくらが加害者でもあるのだと。

映画「アオギリにたくして」は21世紀を生きるぼくら日本人の平和を求め、消えることのない希望の灯として多くの観客に大いなる感動を与えるだろう。それは最早、疑いようのないぼくらの確信となっている。

●小説「アオギリにたくして」
映画「アオギリにたくして」の原作となる脚本家&監督の中村柊斗の小説「アオギリにたくして」今年出版予定です。

●世界に広がる日英対訳による絵本「おりづるのつて」
コト子供たちの物語(発行：ミュージズの里)好評発売中!!日本を訪れる外国人が、帰国の際におみやげとして持ち帰り、自分の国の子供たちに絵本をプレゼントしてくださいませ!!
※広島原爆資料館2Fの売店や長崎原爆資料館でも販売されています。

●AOGIRIプロジェクト

映画「アオギリにたくして」の収益金は、被爆者のメッセージを世界に伝え、被爆アオギリ2世や3世の種や苗に平和の思いをたくして植樹していく活動に使われます。

●「ミュージズの里」ライブ出演&参加募集!!
表現するって素晴らしい☆ミュージズの里では、国籍や世代・ジャンルを超えた「表現の場づくり」をしています!オープンマイク・チャリティーライブ・ブックイング制のライブ・表現者支援のための100%チャリジバックライブ等、みんなと一緒に様々なライブ企画をしています!企画案&スタッフ募集中!
※詳細は<http://musevoice.com>
◎お問合せ: E-mail: info@musevoice.com
●アオギリは鳳凰の宿る木とされています。日本の一万円札にも描かれている鳳凰は、36種の羽を持つ動物の長であり、平和な世にのみ姿を現すといわれています。「アオギリ通信」は、国籍や世代・ジャンルを超えた表現や交流の場づくりを通して、平和づくりにつながる記事や情報の発信をしています。皆様どうぞよろしくお申し込み申し上げます。